好酸球性消化管疾患情報 WEB サイト

好酸球性消化管疾患情報サイトについて

1.　サイトの目的

好酸球性消化管疾患は、現段階では不明な点が多く、一気に問題を片付けることは難しいと感じる患者も多い。また、手術などによって完治する病気でもなく、患者自身や家族が病気の性質を知り、家庭での医療者の役割を担うことが治療成功の秘訣となる。このような背景から、特に中学生の好酸球性胃腸炎（EGE）患者を想定して、好酸球性消化管疾患についてできるだけ短時間で簡単かつ正確に理解を深め、主治医とこころを合わせ、病気と闘えることを目的に作成された。

さらに、専門病院を公開することで、患者が近所で好酸球性消化管疾患を診察できる病院を迷わず選び、スムーズな受診ができるようにすることも目的とした。

2.　サイトの公開範囲

患者の個人情報やそれぞれの症状の入力などはなく、情報提供に限るため、特にユーザー登録など限定せず、成育医療研究センターWeb サイト内に一般公開とする。

3.　各ページ概要

3.-1.　「好酸球性消化管疾患 患者さん用情報 WEB サイト」のページ

サイトの目的と、好酸球性消化管疾患の大きな分類について、説明したページとなっている（図 1)。

3.-2.　「好酸球性胃腸炎について」のページ

「好酸球性胃腸炎とは」、「診断方法」、「治療方法」、「医療費助成・難治性疾患の制度」の 4 項目に分けて説明をした。

①　「好酸球性胃腸炎とは」について

ここでは、好酸球性胃腸炎の概要、症状の続く期間による分類、原因、病気のメカニズムについて、説明を行った（図 2)。

②　「診断方法」について

ここでは、好酸球性胃腸炎の診断の流れ、症状スコア、QOL スコアについて説明をした（図 3)。

③　「治療方法」について

ここでは、薬物療法の内容について説明をした（図 4)。

④　「医療費助成・難治性疾患の制度」について

ここでは、医療費助成について、難病情報センターのリンクを紹介した（図 5)。また、ページの末尾には、厚労省研究班作成の好酸球性消化管疾患診療ガイドラインのリンクも紹介されている。

※「厚労省研究班作成の好酸球性消化管疾患診療ガイドライン」リンク先：指定難病患者への医療

費助成制度のご案内 – 難病情報センター（nanbyou.or.jp）

3.-3.　「好酸球性食道炎について」のページ

「好酸球性食道炎とは」、「診断方法」、「治療方法」、「医療費助成・難治性疾患の制度」の 4 項目に分けて説明をした。

① 「好酸球性胃腸炎とは」について

ここでは、好酸球性食道炎の概要、症状の続く期間、原因、病気のメカニズムについて、説明を行った（図 6）。

② 「診断方法」について

ここでは、好酸球性食道炎の診断の流れ、症状スコア、QOL スコアについて説明をした（図 7）。なお、「難治性疾患制度において重症度を測るためのスコア」については、下記のリンクを貼った。

※「難治性疾患制度において重症度を測るためのスコア」リンク先：098-201704-kijyun.pdf (nanbyou.or.jp)

③ 「治療方法」について

ここでは、薬物療法の内容や食事療法や外科療法について説明をした（図 8）。

④ 「医療費助成・難治性疾患の制度」について

ここでは、医療費助成について、難病情報センターのリンクを紹介した（図 9）。また、ページの末尾には、厚労省研究班作成の好酸球性消化管疾患診療ガイドラインのリンクも紹介されている（3.-2.と同様）。

3.-4.　「診療が行える病院」のページ

好酸球性消化管疾患の診療が行える病院の全国のリスト（リンクを含む）を掲載していくページとした（作成途中、図 10）。

3.-5.　「消化管の部位とはたらき」のページ

食道、胃、小腸、大腸の消化、吸収のはたらきについて、好酸球性消化管疾患の症状と照らし合わせながら説明をした（図 11）。

3.-6.　「症状から病名を推測するには？」のページ

2 歳以上の患者について、症状から病名を絞り込めるような一覧を作成した（図 12）。病名から、各病気のページ（3.-2、3.-3.）にリンクを貼った。さらに、病名の一覧の一つに、「食物蛋白誘発胃腸炎について」を加え、リンク先に詳細を説明した（図 13）。

好酸球性消化管疾患 患者さん用情報WEBサイト

好酸球性消化管疾患情報サイト | 好酸球性胃腸炎について | 好酸球性食道炎について

診療が行える病院 | 消化管の場所とはたらき | 症状から病名を推測するには？

好酸球性胃腸炎、好酸球性食道炎の患者さんへ

ある日突然、おなかの異常が始まり、すぐに治ってほしいと期待していたのに、数か月、数年と続いているかと思います。病気が人生に影をおとしていると感じることでしょう。この病気は、現段階では不明な点が多く、一気に問題を片付けることは難しいと思います。また医師にまかせておけば手術などによって完治する、という病気でもありません。むしろ患者さんご自身やご家族がこの病気の性質をよく知って、家庭での医療者の役割を担うことが治療成功の秘訣です。このサイトは、この病気について短時間で理解を深めて、主治医の方たちとこころを合わせ、病気とたたかえることを目的に作成されました。

一病息災との言葉もあります。病気や苦しみをきっかけにして、自分の体、心、生命についての理解が深まるともいいます。よりよい人生になることを願っています。

好酸球性消化管疾患

好酸球性消化管疾患は、炎症が起きる部位によって、大きく2つに分かれます。 食道に炎症が限局した好酸球性食道炎と、それ以外にも炎症がある好酸球性胃腸炎です。

好酸球性食道炎・好酸球性胃腸炎の炎症部位

図 1　「好酸球性消化管疾患 患者さん用情報 WEB サイト」のページ

好酸球性胃腸炎について

好酸球性消化管疾患情報サイト
好酸球性胃腸炎について
好酸球性食道炎について
診療が行える病院
消化管の部位とはたらき
症状から病名を推測するには？

- 好酸球性胃腸炎とは
- 診断方法
- 治療方法
- 医療費助成・難治性疾患の制度

好酸球性胃腸炎とは

消化管に炎症（ただれ）が起きて、様々な症状を引き起こす病気です。

はき気、嘔吐、腹痛、腹部の張り、血便、腹水などの症状が一カ月以上続きます。 栄養が取れない場合、体重が減る、身長が伸びないなどがおきることもあります。

消化管内視鏡検査を行って、小さい組織を採取し、顕微鏡で見て、好酸球という細胞が胃、小腸、大腸などに集積しているときに診断されます。 食道のみに炎症が見られる好酸球性食道炎は、好酸球性食道炎についてをご覧ください。

何年も炎症が続く患者さんは、薬やそのほかの治療で症状を抑えて、お仕事、勉強、スポーツなどを十分に行えるようにしましょう。 標準治療は、ステロイド内服ですが、特に小児期の方は副作用が気になります。今後は様々な治療オプションが生まれてくると期待されます。

病気はいつまで続くのでしょうか？

好酸球性胃腸炎の病気が続く期間は、患者さんによって大きく以下の3つに分かれます。持続型（じぞくがた）や間歇型（かんけつがた）の患者さんは、日常生活を送るために、適切な治療を選択する必要があります。

持続型 （じぞくがた）	症状が少なくとも半年以上、多くは数年以上続く。治療なしに症状が完全に良くなることは少ない。
間歇型 （かんけつがた）	症状は、半年以内で完全に良くなって、いったんは治療が必要なくなるが、再発を繰り返す。
単発型 （たんぱつがた）	症状は続いても半年以内で完全に回復し、治療が必要なくなり、再発することはない。

図 2-1　「好酸球性胃腸炎について」のページ内の、「好酸球性胃腸炎とは」について

なぜこの病気になってしまったのでしょうか？

好酸球性胃腸炎がはじまる根本原因はわかっていません。 ただ、炎症を悪化させるものとして、患者さんによっては、ある種の食物、花粉、アレルギー性鼻炎などがわかっています。

発症リスクを高める因子：両親に、アレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）が多いと言われています。

遺伝子の影響：まだ、論文発表が行われていません。

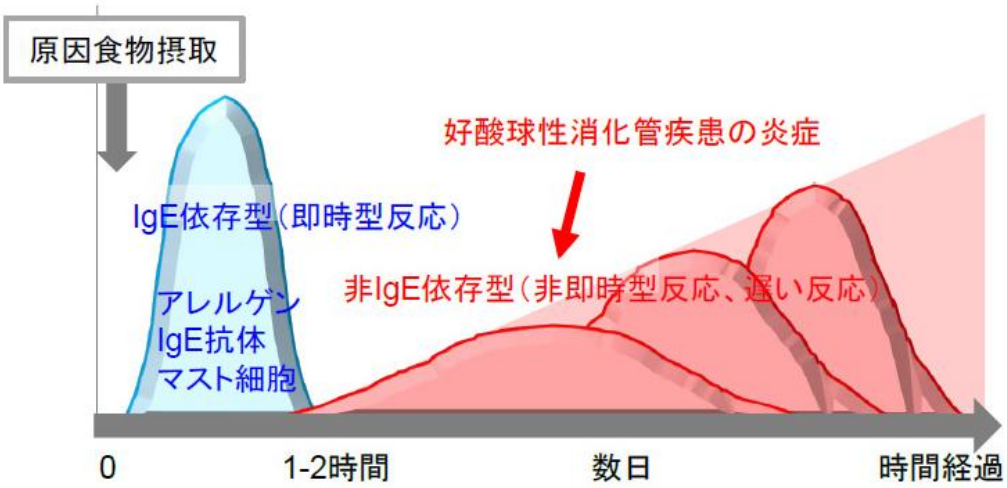
病気のメカニズムとは？

好酸球性胃腸炎は、主に非IgE依存型反応（非即時型反応）により炎症が起きると考えられています。

よく知られているIgE依存型反応（即時型反応）は、原因と予想される食物に対する特異的IgE抗体を検査すると、陽性か否か判定できます。更に食物負荷試験を行って、確定診断を行います。

好酸球性胃腸炎の診断上、食物特異的IgE抗体はあまり役にたちません。原因食物がはっきりした患者さんでも、その食物に対する特異的IgE抗体が陽性のこともあれば陰性のこともあります。

好酸球性胃腸炎は、IgE抗体ではなく、細胞性免疫、しかも寄生虫を本来攻撃するための2型免疫が原因の中心だと考えられています。2型免疫をつかさどるリンパ球などが、寄生虫の攻撃を受けたと勘違いして、好酸球（寄生虫をやっつける免疫細胞）を呼び寄せ、炎症を起こすのだと考えられています。



図： IgE依存型と非依存型の、原因食物摂取後、時間経過を示す

食物に対する反応はその時間経過と症状から大きく2つに分かれる。

IgE依存型反応（青色で示す）
広く知られている食物アレルギーは、IgE依存型反応により起きる。全身に遍在する食物特異的IgE抗体とマスト細胞によって蕁麻疹や呼吸困難などの症状を起こす。多くは数分から2時間以内に発動する。

非IgE依存型反応（赤色で示す）
一方非IgE依存型反応は、短ければ1時間、場合によっては2週間以上経って発動しする。炎症を起こす臓器は抗原認識細胞が存在する部位（本症であれば消化管）に限定されている。

図 2-2　「好酸球性胃腸炎について」のページ内の、「好酸球性胃腸炎とは」について（続き）

好酸球性胃腸炎の診断方法

好酸球性胃腸炎の診断の流れ

好酸球性胃腸炎の診断は以下のように行います。

1. 嘔気、嘔吐、食欲不振、腹部膨満、下痢、血便などの症状、一つ以上が一か月以上続いている。（持続期間が一か月以内であっても、診断される場合があります）
2. 鑑別疾患を除外する
   過敏性腸症候群（機能性胃腸障害）；クローン病；潰瘍性大腸炎；アレルギー性肉芽腫性血管炎；シェーンラインヘノッホ紫斑病；感染性腸炎；寄生虫感染；好酸球性白血病；好酸球増多症候群；放射線性腸炎；虚血性腸炎；悪性リンパ腫；非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs)腸炎、など
3. 消化管内視鏡検査で、組織を一部採取し、好酸球が集まっていることを証明します。
   好酸球が、顕微鏡の400倍で見て、一視野に20個以上あった場合、本症と診断します。
   ただし、盲腸、上行結腸という部分には、健康な方でも20個以上好酸球が見られることが多いため、慎重に診断をします。

症状スコア

①　日常診療に役立つ、毎日患者さんがつけるスコア

追記します。

②　難治性疾患制度において重症度を測るためのスコア

追記します。

QOLスコア

追記します。

図 3　「好酸球性胃腸炎について」のページ内の、「診断方法」について

好酸球性胃腸炎の治療方法

標準治療は、経口ステロイドです。最初は多めの量で炎症を抑えておいて、徐々に減量し、なるべく少ない量で症状が出ないようにします。 長期的に内服すると、量によっては全身性の副作用が出現するため、なるべく少ない量が良いのですが、少なすぎると症状が出るため、気を付けなければなりません。

一部の患者さんは、プロトンポンプ阻害薬、抗ロイコトリエン薬などが効果を示すことがあります。これらは副作用がほとんどありません。 その他、食物や花粉など炎症を起こす原因が見つかる患者さんもいらっしゃいます。この方たちは、原因物質をなくすことで、薬が必要なくなる場合もあります。

様々な治療薬が開発中であり、よりよい治療が出てくることを期待しています。

図 4　「好酸球性胃腸炎について」のページ内の、「治療方法」について

好酸球性胃腸炎の医療費助成、難治性疾患の制度

好酸球性胃腸炎は、一定の重症度を示し、内視鏡組織検査で好酸球の集積が認められた患者さんについて、医療費助成の制度が適応されます。詳しくは、難病情報センター、医療費助成制度のページをご覧ください。

▸ 難病情報センター：指定難病患者への医療費助成制度のご案内

本サイトをご覧になったうえで、さらに詳しい内容を知りたい方は、厚労省研究班作成の好酸球性消化管疾患診療ガイドラインが無償公開されています。ご参照ください。

図 5　「好酸球性胃腸炎について」のページ内の、「医療費助成・難治性疾患の制度」について

好酸球性食道炎について

- 好酸球性食道炎とは
- 診断方法
- 治療方法
- 医療費助成・難治性疾患の制度

好酸球性食道炎とは

好酸球というアレルギー反応に関与する白血球が、食道にたくさん集まって慢性的な炎症を生じる病気です。炎症が持続することによって食道の動きが悪くなり、食事が通りにくくなったり、つかえる感じや胸やけ、胸の痛みなどの症状を生じます。さらに進行すると食道が狭くなって、食事が詰まってしまうこともあります。
日本では、まれな病気と考えられていましたが、最近、人間ドックなどで胃カメラを受けた際に診断される割合が増加しています。

好酸球が**食道だけ**に集まった場合に好酸球性食道炎と言います。胃や腸にも集まって炎症が起きている場合には、好酸球性胃腸炎と診断されます。

▸ 好酸球性胃腸炎について

病気はいつまで続くのでしょうか？

慢性的に経過し、自然治癒することは少ないとされています。また、治療により落ち着いた状態であっても、治療を中断すると再発することが多いと報告されています。

図 6-1　「好酸球性食道炎について」のページ内の、「好酸球性食道炎とは」について

なぜこの病気になってしまったのでしょうか？

発症の原因については、はっきりわかっていませんが、喘息やアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患を持っている人に多く発症します。また、30～50歳代の男性の方に発症しやすいことがわかっています。

多くの病気には遺伝的な要因と環境的な要因が関与しますが、この病気では遺伝的な要因よりも環境的な要因（出生時の状況など）が発症に強く関連していることが報告されています。

病気のメカニズムとは？

正確にはわかっていませんが、この病気の患者さんに対して特定の食事を制限することで炎症の改善が認められることが多いため、主に食物抗原（アレルゲン）に対する慢性的なアレルギー反応によって食道に炎症が生じると考えられています。食道の粘膜に抗原が接触するとアレルギー反応を生じ、そのシグナルによって食道に好酸球がたくさん集まり、好酸球から分泌される蛋白やアレルギー反応によって誘導される蛋白が、食道に慢性的な炎症を引き起こすというメカニズムが想定されています。このような状態が持続すると食道の動きが悪くなったり、狭くなったりします。

この反応は、食事を摂取後に短時間でじんましんやかゆみ、下痢などが生じる即時型の食物アレルギーとは異なり、慢性的に生じるため、血液検査（特異的IgE抗体など）や皮膚テストで原因となる抗原を見つけ出すことは困難です。

図 6-2　「好酸球性食道炎について」のページ内の、「好酸球性食道炎とは」について（続き）

好酸球性食道炎の診断方法

好酸球性食道炎の診断の流れ

好酸球性食道炎は以下のことによって診断されます。

1. 食道の働きの低下を示す嚥下障害や食事のつかえ感などの症状がある。
2. 上部消化管内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）で食道から組織を採取（生検）し、顕微鏡で観察すると好酸球が多数集まっている。
3. 食道に好酸球が集まる他の原因を除外する。

食道に好酸球が集まる病気には、好酸球性食道炎以外に好酸球性胃腸炎、好酸球増多症候群、薬剤が原因となるもの、炎症性腸疾患などがありますので、これらを区別することも大切です。

好酸球性食道炎の組織学的診断方法

食道上皮内の好酸球集積部位において、好酸球数が15個以上/HPFの時、診断されます。
HPF (high power field)とは、顕微鏡の400倍、1視野のことです。

症状スコア

①　日常診療に役立つ、毎日患者さんがつけるスコア

日常生活では嚥下困難や食事のつかえ感が問題となります。好酸球性食道炎に関連した嚥下障害の程度を評価する質問票として嚥下障害症状質問票（DSQ）が用いられます。
（内容は、追って記します）

②　難治性疾患制度において重症度を測るためのスコア

https://www.nanbyou.or.jp/wp-content/uploads/upload_files/File/098-201704-kijyun.pdf

QOLスコア

追記します。

図 7　「好酸球性食道炎について」のページ内の、「診断方法」について

好酸球性食道炎の治療方法

薬剤による治療が必要と判断された場合、最初に用いられるのは胃酸の分泌を抑える薬（プロトンポンプ阻害薬）です。この薬は逆流性食道炎や胃・十二指腸潰瘍でも用いられ、比較的安全性の高い薬です。胃酸の分泌を抑えることで、食道のバリア機能が改善してアレルギー反応を抑える効果があると考えられており、服用によって約6～7割の患者さんは症状や食道の炎症が改善します。

プロトンポンプ阻害薬で効果がない場合は、喘息で用いられるステロイド吸入薬を、吸入するのではなく、飲み込んで食道に付着させる、局所ステロイド治療を行います。
この2つの治療で多くの方は病状が安定します。

海外では、小麦、乳製品、卵、大豆、ナッツ類、魚介類の6種類の食事を除去する抗原除去食の摂取によって約7割が改善すると報告されていますが、日本では、あまり行われていません。

長期間の経過で食道が狭くなっている場合には、内視鏡を使って狭いところを拡張するバルーン拡張という治療が行われます。

図 8　「好酸球性食道炎について」のページ内の、「治療方法」について

好酸球性食道炎の医療費助成、難治性疾患の制度

好酸球性食道炎は、一定の重症度を示し、内視鏡組織検査で好酸球の集積が認められた患者さんについて、医療費助成の制度が適応されます。詳しくは、難病情報センター、医療費助成制度のページをご覧ください。

▶ 難病情報センター：指定難病患者への医療費助成制度のご案内

本サイトをご覧になったうえで、さらに詳しい内容を知りたい方は、厚労省研究班作成の好酸球性消化管疾患診療ガイドラインが無償公開されています。ご参照ください。

図 9　「好酸球性食道炎について」のページ内の、「医療費助成・難治性疾患の制度」について

診療が行える病院

好酸球性消化管疾患情報サイト
好酸球性胃腸炎について
好酸球性食道炎について
診療が行える病院
消化管の部位とはたらき
症状から病名を推測するには？

診療が行える病院リスト

このリストにない、医療機関で、実際は診療が行われている場合ももちろんあります。今後、情報を集めて、掲載するようにいたします。

都道府県	病院名	診療科	好酸球性胃腸炎		ひとこと
			内視鏡	治療	
北海道	札幌市民病院	消化器内科	○	○	これまでに多くの患者さんを治療してきました。
	JR釧路病院	小児科		○	お子さんのおなかの症状でお困りのとき、お役に立ちたいと思います。

図 10　「診療が行える病院」のページ

消化管の部位とはたらき

好酸球性消化管疾患情報サイト
好酸球性胃腸炎について
好酸球性食道炎について
診療が行える病院
消化管の部位とはたらき
症状から病名を推測するには？

消化管とは

食べ物の消化、吸収を行うところで、下のように分かれています。

食道
胃
小腸
大腸

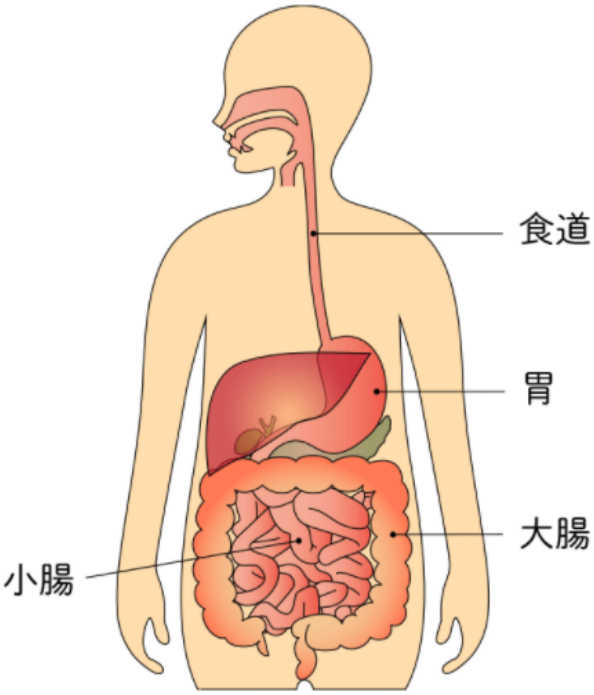


図 11-1　「消化管の部位とはたらき」のページ

食道

たべものを胃まで運ぶところです。

ここに炎症が起きると、食べ物を飲み込みづらくなります。

胃

たべものを一旦ためこんで、 胃酸によって分解します。

ここに炎症があると

- 胃の場所の痛み
- 食欲不振
- すぐにおなかがいっぱいになる
- 嘔吐
- 低蛋白血症

が起きます。

小腸

胃で分解された食物を、更に細かく分解するとともに、栄養を吸収します。消化管の中でも、生命維持のために最も大切なところと言えます。

ここに炎症があると

- 嘔吐
- 低蛋白血症 （血液中のたんぱく質が少ない状態）
- 腹痛
- 下痢
- 体重減少

が起きます。

大腸

食物から栄養を吸収した残りの部分から水分を吸収して、便を形成します。

ここに炎症があると

- 腹痛
- 下痢
- 血便

が起きます。

図 11-2　「消化管の部位とはたらき」のページ（続き）

症状から病名を推測するには？

症状から、病気をしぼりこみましょう。
患者さんの年齢は2才以上～高年齢まで適応されます。

どのような症状がありますか？

食物がのどにつかえて飲み込みにくい	1か月以上続いている →	好酸球性食道炎の疑い
• 嘔吐が続いている • 下痢が続いている • 体重が減ってしまう • 血便が出ている • 腹痛が続く	1か月以上続いている →	好酸球性胃腸炎の疑い
特定の食物を食べるたびに、1-4時間後に何度も吐いてしまう。それ以外の食物は全く問題ない。	→	食物蛋白誘発胃腸炎の疑い

図 12　「症状から病名を推測するには？」のページ

食物蛋白誘発胃腸炎について

好酸球性消化管疾患情報サイト
好酸球性胃腸炎について
好酸球性食道炎について
診療が行える病院
消化管の場所とはたらき
症状から病名を推測するには？

食物蛋白誘発胃腸炎 (Food-protein-induced enterocolitis syndrome: FPIES) とは

特定の食物摂取後、1－4時間ほどしてから、何度も吐くことを繰り返します。 その後、下痢が起きることも多いです。 ひどいときは、脱水状態になり、細胞外液点滴、ステロイド静脈注射などの救急治療が必要な場合もあります。

0－1歳の乳児に多いのですが、成人の方もいて、高齢になっても嘔吐が続いている方もいらっしゃいます。

原因食物が血液検査では陽性にならないため、診断に苦慮することが多いと思います。 2回以上同様のエピソードが見られたときや入院負荷試験で再現されたときに診断されます。

難治性疾患の医療費補助は、2歳未満の発症の方に行われていますが、それ以上の年齢での発症の方は、残念ながら対象となっていません。

図 13　「症状から病名を推測するには？」のページ内、「食事蛋白誘発胃腸炎」のリンク先